

課題

- 長崎市では、高齢化や生産年齢人口の減少による地域公共交通の持続性が低下
- 地形上、斜面地区が多数存在し、高齢に伴う外出意欲の低下による健康生活の持続性の低下懸念があり、「交通空白地」には、乗合タクシー事業を実施
- 観光旅客の増加に伴い「携行品」の量が増加し、長崎電気軌道の利用環境が悪化

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 長崎電気軌道・乗合タクシーにstera transitを導入。乗車サービスの向上とMaaS基盤の構築を実施し、公共交通利用頻度の向上および事業者の持続性向上を図る

①生活者向けサービスの向上

- ・全線上限運賃 ・運転免許証返納割引 ・乗合タクシー事業のキャッシュレス化
- ・乗合タクシーと長崎電気軌道の連携サービス
- ・通勤時間帯の混雑緩和を企図した昼間時オフピーク割引

②観光客向けサービスと長崎電気軌道の利用環境向上(オーバーツーリズム対策)

- ・「手ぶら観光」と連携した割引策の実施による車内携行品持ち込みの抑制
- ・SMCC MaaSアプリを活用した観光・商業施設連携

[モビリティ・データの取得と活用]

- タッチ決済による交通利用と消費、観光活動をキャッシュレスデータから分析

[エンドコンテンツとの連携]

- 長崎電気軌道の1日乗車券と沿線の観光施設、商業施設とのクーポン割による需要喚起
- SMCC会員をAI分析し、長崎に興味有層へ「長崎周遊パス」および本件のPush配信

効果

- 市内生活者の公共交通利用頻度向上、高齢者向けサービスの充実による高齢者のお出かけ促進、観光客と市民の分散対策等による公共交通利用環境の向上
- 移動データと消費データの見える化による施策実行可能性の向上

事業の新規性

- グローバルスタンダードであるタッチ決済機能やタッチ決済を活用した企画券によるシームレスな移動や施設利用体験の提供(民間事業者保有のモビリティデータ連携基盤を活用)
- タッチ決済×運転免許証返納割引や手ぶら観光等のサービスをクラウド上で紐づけ
- モビリティデータを活用して運行計画やダイヤ改修などのサービス向上、市内バスやタクシー等の二次交通の利便性向上と経営効率化を企図

事業エリア/交通事業

事業エリア : 長崎市

交通事業 : 長崎電気軌道、乗合タクシー事業各社(住吉タクシー、新城山交通、文化タクシー、愛宕交通、ラッキー自動車)

MaaSアプリ等

- stera transit、SMCC MaaSアプリ

データの活用等

- データの取得方法 : stera transit、Custella transit、JCB Data Driver
- データの活用方法
目的:乗降データやユーザー属性・消費データの取得のため
使用するサービス:stera transit

座組

stera transit 長崎MaaS協議会

長崎市

長崎電気軌道

三井住友カード

ワーキング参加企業

長崎国際観光コンベンション協会
十八親和銀行、FFGカード
JCB、ニモカ、
西鉄エム・テック、小田原機器
QUADRAC
乗合タクシー運航事業各社

沿線観光施設
沿線商業施設

スケジュール

- 4月 サービス要件検討
- 5月 システム開発開始
- 8月 テスト環境試験
- 9月 本番環境試験
- 10月 実証実験開始
(実証内容を順次展開)
- 2月 実証データ分析・効果測定
(10月～1月のデータを分析)
実証実験終了、報告とりまとめ